

# Association of Airflow Limitation With Carotid Atherosclerosis in a Japanese Community : The Hisayama Study

工藤, 国弘

<https://hdl.handle.net/2324/1959081>

---

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

(別紙様式2)

氏名	工藤 国弘
論文名	Association of Airflow Limitation With Carotid Atherosclerosis in a Japanese Community — The Hisayama Study —
論文調査委員	主査 九州大学 教授 筒井 裕之 副査 九州大学 教授 馬場園 明 副査 九州大学 教授 鴨打 正浩

### 論文審査の結果の要旨

【目的】福岡県久山町の地域一般住民を対象に、気流制限と頸動脈内膜中膜複合体厚(IMT)の関連について検討した。

【方法】2008年に久山町の住民健診を受診した40歳以上の男女2099人を対象に、肺機能検査と頸動脈超音波検査を行った。気流制限(1秒率70%未満)の有無別、重症度別に総頸動脈の最大IMT値と平均IMT値を比較した。

【結果】対象者のうち352人(16.8%)に気流制限を認めた。気流制限がない者と比べて気流制限がある者は、性・年齢調整後の最大IMT値、平均IMT値がともに有意に高かった。これらの関係は、喫煙歴、その他の心血管危険因子、高感度CRPの影響を調整しても変わらなかった。また、気流制限の重症度が上がるにつれて最大IMT値、平均IMT値は有意に上昇した。気流制限とIMT肥厚の関連は、老年期(65歳以上)と比べて中年期(40~64歳)でより強かった。

【結論】わが国の地域住民において、気流制限は頸動脈硬化の有意な危険因子であった。なかでも、中年期に気流制限を有する者は動脈硬化性疾患のハイリスク者と考えられた。以上の成績はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについても適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と判定した。

なお本論文は共著者10名であるが、予備調査の結果、本人が主導的役割を果たしていることを確認した。